

みずほマーケット・トピック(2023 年 2 月 24 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米金利上昇を受け上昇した。週初20日、134.34円でオープンしたドル/円は、米国休日で米国債取引がない中、一日を通して134円台前半を主としたレンジ推移にとどまった。21日、ドル/円は米金利上昇を背景に134円台前半でじり高推移。海外時間は、米1月製造業/サービス業PMIがいずれも市場予想を上回ったことを受け、米金利上昇につれ135円台前半に続伸。引けにかけてはドルの戻り売りもあり135円付近で翌日に渡った。22日、ドル/円は米金利低下から134円台後半でじり安推移。海外時間は134円台前半に続落するも、FOMC議事要旨(2月会合分)で引き続きFRBによる利上げ姿勢が意識され反発、134円台後半に値を戻した。23日、ドル/円は東京休場の中、134円台後半におけるレンジ推移。海外時間は、米新規失業保険申請件数が市場予想を下回り、タイトな労働市場を意識した米金利上昇とともに一時週高値となる135.37円を試した。引けにかけては米金利が反転し、134円台半ばへ反落した。本日のドル/円は、植田日銀新総裁候補の所信聴取を控え、134円台でボラティルな値動きの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、欧米金利差拡大を受け、1.06を割り込んだ。週初20日、1.0684でオープンしたユーロ/ドルは、米国休場の中、動意薄の展開。1.06台後半を主としたレンジ推移となった。21日、ユーロ/ドルは米金利上昇を受けじり安推移。ロンドンフィクシングにかけては強烈的なユーロの買い戻しから1.07を目指す場面も見られたが、堅調な米1月PMIの結果を受けたドル買いが重しとなり、1.06台半ばに続落した。22日、ユーロ/ドルは材料難の中、欧米金利差につれる展開も、FOMC議事要旨を受けたドル買いを背景に一時1月6日以来となる1.05台に下落した。23日、ユーロ/ドルは1.06台前半でじり高推移も、NY時間には欧米金利差拡大から一時週安値となる1.0578に反落した。本日のユーロ/ドルは、ドル買いが一服し、1.06付近での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/17(Fri)	2/20(Mon)	2/21(Tue)	2/22(Wed)	2/23(Thu)
ドル/円	東京9:00	134.07	134.34	134.34	135.01	134.95
	High	135.12	134.54	135.23	135.06	135.37
	Low	133.95	133.92	134.15	134.38	134.48
	NY 17:00	134.15	134.29	135.02	134.92	134.68
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0665	1.0684	1.0682	1.0650	1.0608
	High	1.0698	1.0704	1.0698	1.0662	1.0628
	Low	1.0613	1.0671	1.0638	1.0598	1.0578
	NY 17:00	1.0695	1.0685	1.0647	1.0606	1.0594
ユーロ/円	東京9:00	143.01	143.42	143.51	143.81	143.14
	High	143.67	143.61	144.15	143.84	143.51
	Low	142.94	143.05	143.21	143.06	142.57
	NY 17:00	143.53	143.50	143.70	143.07	142.70
日経平均株価		27,513.13	27,531.94	27,473.10	27,104.32	-
TOPIX		1,991.93	1,999.71	1,997.46	1,975.25	-
NYダウ工業株30種平均		33,826.69	-	33,129.59	33,045.09	33,153.91
NASDAQ		11,787.27	-	11,492.30	11,507.07	11,590.40
日本10年債		0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	-
米国10年債		3.82%	-	3.95%	3.93%	3.89%
原油価格(WTI)		76.55	-	76.36	73.95	75.39
金(NY)		1,850.20	-	1,842.50	1,841.50	1,826.80

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、3月1日(水)に2月ISM製造業景気指数、3日(金)に2月非製造業景気指数の結果が公表予定となっている。1月の結果はそれぞれ47.4、55.2となった。製造業については12月の48.4から低下し、新規受注指数は42.5とコロナ期を除けば2009年3月以来の低水準となった。足許の需要の弱まりを懸念する声が多く聞かれ、景気後退懸念が強まる結果となった。業種別では18のうち改善が報告されたのは2業種のみにとどまった。一方で、非製造業については、12月の49.2から大きく改善した。12月の大きな下振れは寒波の要因が大きく、1月小売売上高などの指標を見てもサービス需要が冷え込んでいない点が示唆された。新規受注指数や事業活動指数で大きな改善が見られ、景気に対し強気なコメントも多く聞かれた。業種別では18のうち10業種と半数以上で改善が確認された。なお、ブルームバーグの予想では、2月の結果をそれぞれ47.8、54.5と見込んでいる。
- 欧州では、2日(木)にユーロ圏2月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定。前回1月の結果(確報)は+8.6%(前年比、以下同様)と速報時点の+8.5%からは上方修正されるも、3か月連続で伸びが鈍化した。一方で、エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでは+5.3%と過去最高を更新しており、騰勢が継続している。エネルギー価格下落に伴い総合ベースでのインフレ鈍化は顕著ではあるものの、従前からの予想対比で堅調な域内経済が、賃金上昇圧力の高まりを通じコアベースのインフレ率押し上げに寄与している疑いがあり、ラガルド ECB 総裁やシュナーベル ECB 理事をはじめ ECB 関係者の間でもインフレ長期化に対する懸念は根強い状況にある。

	本 邦	海 外
2月24日(金)	・1月全国消費者物価指数 ・衆議院、植田日銀総裁候補への所信聴取	・米1月個人所得/支出 ・米1月個人消費支出デフレーター ・米1月新築住宅販売件数 ・米2月ミシガン大学消費者マインド(確報)
27日(月)	・12月景気動向指数(確報)	・ユーロ圏2月消費者信頼感(確報) ・米1月耐久財受注(速報)
28日(火)	・1月鉱工業生産(速報) ・1月小売売上高	・米12月FHFA住宅価格指数 ・米2月コンファレンスボード消費者信頼感
3月1日(水)	・2月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏2月製造業PMI(確報) ・米2月製造業PMI(確報) ・米2月ISM製造業景気指数
2日(木)	・10～12月期設備投資	・ユーロ圏2月消費者物価指数(速報)
3日(金)	・1月失業率/有効求人倍率 ・2月サービス業PMI(確報)	・ユーロ圏2月サービス業PMI(確報) ・米2月サービス業PMI(確報) ・米2月ISM非製造業景気指数

【当面の主要行事日程(2023年3月～)】

日銀金融政策決定会合(3月9～10日、4月27～28日、6月15～16日)
ECB政策理事会(3月16日、5月4日、6月15日)
FOMC(3月21～22日、5月2～3日、6月13～14日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年2月21日	利上げ減速のイメージが湧かないユーロ圏
2023年2月20日	現実味増すインフレ長期化～円安シナリオの再起動～
2023年2月17日	週末版(本邦1月貿易統計を受けて～史上最大、再び～)
2023年2月15日	本邦10～12月期GDP～3年経ってもコロナ前～
2023年2月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年1月分)
	日銀、植田新体制への所感～Q&A方式での整理～
2023年2月13日	日銀、植田新体制への所感～理想から現実へ～
2023年2月10日	週末版
2023年2月9日	ユーロ圏、インフレ期待の現状～pivotは支持されず～
2023年2月8日	2022年の国際収支統計を受けて～意外な伏兵～
2023年2月7日	日本はドイツに追い抜かれてしまうのか～何が違うのか～
2023年2月6日	IMF見通し上昇修正と為替見通しの関係について
2023年2月3日	週末版(ECB政策理事会を終えて～顕著に改善するユーロ相場の取引環境～)
2023年2月2日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2023年1月30日	23年、最初の1か月を終えて～言うほど進まないドル安～
2023年1月27日	週末版(当面のECBの金融政策運営の考え方～「追い風」を得てタカ派に持続性～)
2023年1月25日	神風に救われたユーロ圏経済～最悪からの復活？～
2023年1月24日	「投機の円買い」vs「実需の円売り」の行方
2023年1月23日	日銀タカ派とFRBハト派の併存は可能なのか？
2023年1月20日	週末版(史上最大の貿易赤字をどう捉えるか～輸入増加の次は輸出減少に？～)
2023年1月19日	日銀政策決定会合を受けて～現状維持とも言い切れず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年12月分)
2023年1月18日	懸念されるユーロ圏のインフレ～コアは加速中～
2023年1月16日	日銀は本当に動くのか？～当面の展開を整理～
2023年1月13日	週末版(依然残る日本の閉鎖性～入国規制とインバウンド需要～)
2023年1月10日	米12月雇用統計を受けて～無理筋なハト派解釈～
2023年1月6日	週末版
2023年1月5日	FOMC議事要旨を受けて～23年利下げへの支持はゼロ～
2023年1月4日	2023年展望の「重要な前提」と「パス」のおさらい
2022年12月23日	週末版(史上最大の円安の年を終えて～円高を「押し目」とする視座～)
2022年12月21日	日銀の政策修正に関する論点整理～日銀Pivot～
2022年12月20日	米インフレ急減速を当然視する風潮は大丈夫なのか
2022年12月19日	円安で注目したい対内直接投資のポテンシャル
2022年12月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ターミナルレート3%」では不十分というメッセージ～)
2022年12月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年11月分)
	FOMCを終えて～PCEピークアウトと利上げ停止時期～
2022年12月14日	米11月CPIを受けて～円相場に対する見方は不変～
2022年12月13日	23年、ドル/円相場のメインシナリオとリスクの要約
2022年12月12日	インバウンド復活は2023年春以降のテーマに
2022年12月9日	週末版
2022年12月6日	ECB政策理事会プレビュー～2つの注目点～
2022年12月5日	「日本人の円売り」は一過性の懸念で終わるのか？
2022年12月2日	週末版(135円台で考える「安い日本」～名目円高では解決しない根深い問題～)
2022年12月1日	まだ警戒が必要なユーロ圏のインフレ情勢
2022年11月29日	ECB議事要旨を受けて～開き始めたFRBとの差～
2022年11月28日	FOMC議事要旨を受けて～利上げ幅縮小に新味なし～
2022年11月25日	週末版
2022年11月24日	投機ポジションで見るドル・円・ユーロの概況
2022年11月22日	消費増税以上の威力を示した40年ぶりのCPI
2022年11月21日	最高難度の局面に挑むECB～多様な「不況下」の物価高～
2022年11月18日	週末版(本邦7～9月期GDPを受けて～購買力の悪化は悲惨な状況～)
2022年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年10月分)
2022年11月16日	FRBは今、何を考えているのか？～蘇る平均インフレ目標～
2022年11月15日	実質ベースで考えるドル/円相場のオーバーシュート
2022年11月14日	ユーロ相場の現状と展望～金利・需給面の整理～
2022年11月11日	週末版(2022年度上半期の経常収支状況を受けて～所得収支の還流が最後の手札～)
2022年11月10日	金利面から見たドル/円相場の現状と展望
2022年11月9日	ユーロ圏経済の近況について～スタグフレーションの淵～
2022年11月4日	週末版
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか？
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月18日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を讀むか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃の前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の現実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて